

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

< 噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続 >

御嶽山では、引き続き火山活動は高まった状態で推移しています。

遠望カメラによる観測では、10 月 10 日以降、白色噴煙が観測されています。また、火山ガス観測によると二酸化硫黄の放出が継続しています。

9 月 27 日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、10 月 7 日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

【防災上の警戒事項等】

今後も噴火が発生する可能性があります。

火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

活動状況

・ 噴煙の状況（図 1、表 1）

本日（16 日）午前 9 時頃から、航空自衛隊の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測によると、白色の噴煙が火口縁上 100m まで上がり北東に流れていました。噴煙に火山灰は認められませんでした。また、噴煙の風下側で、硫化水素臭が認められました。

遠望カメラによる観測では、本日（16 日）15 時 20 分現在、噴煙は白色で、噴煙の高さは火口縁上 200m で北東に流れています。

・ 火山ガス（二酸化硫黄）の状況（図 2、表 1）

昨日（15 日）山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたりおおよそ 200 ~ 400 トン（速報値）で、噴火直後に比べやや少ない状態が続いています。

・ 地震・微動の発生状況（図 3、表 1）

9 月 27 日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、10 月 7 日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

火山性微動の振幅の増減は、山頂付近浅部での火山活動の消長を表しているものと考えられますが、振幅が小さくなったことが必ずしも火山活動の低下を表すものではありません。また、微動の振幅は、火山活動以外の要因により増大することもあります。

・ 地殻変動の状況

地殻変動観測データには、特段の変化はみられません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 御嶽山 噴煙の状況

（10月16日09時32分 航空自衛隊の協力により南西側上空から撮影）

- ・白色の噴煙が火口縁上100mまで上がり北東に流れていました。
- ・噴煙に火山灰は認められませんでした。
- ・噴煙の風下側で硫化水素臭が認められました。

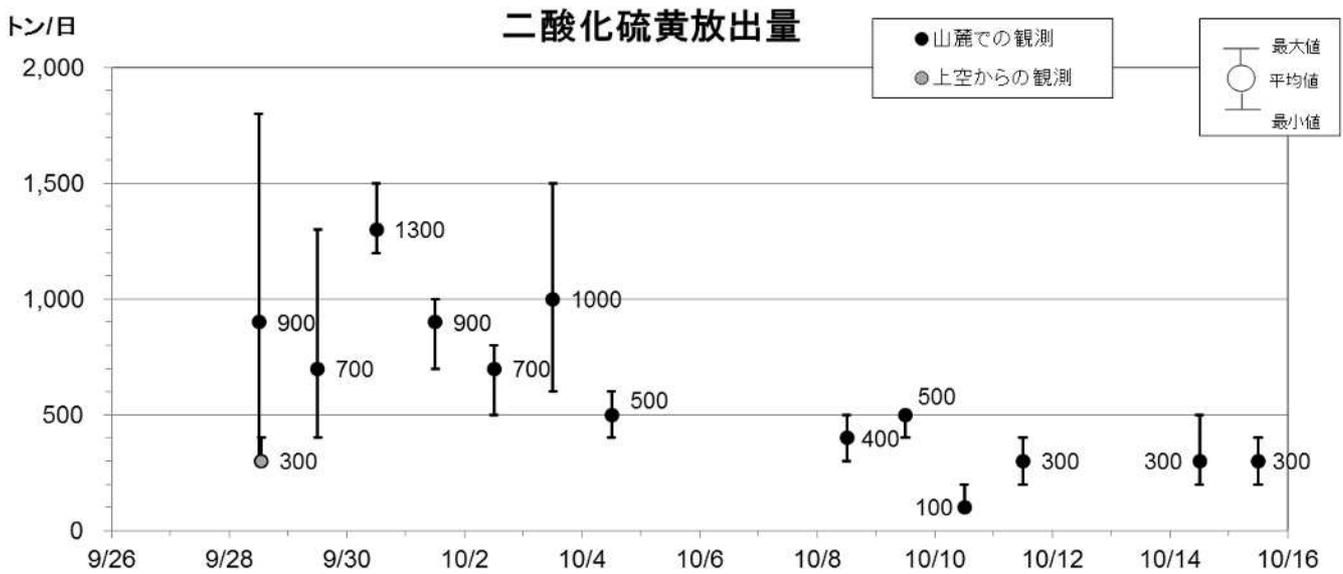


図2 御嶽山 火山ガス（二酸化硫黄）観測結果（9月28日～10月15日）

- ・昨日（15日）に山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたりおおよそ200～400トン（速報値）で、噴火直後に比べやや少ない状態が続いています。

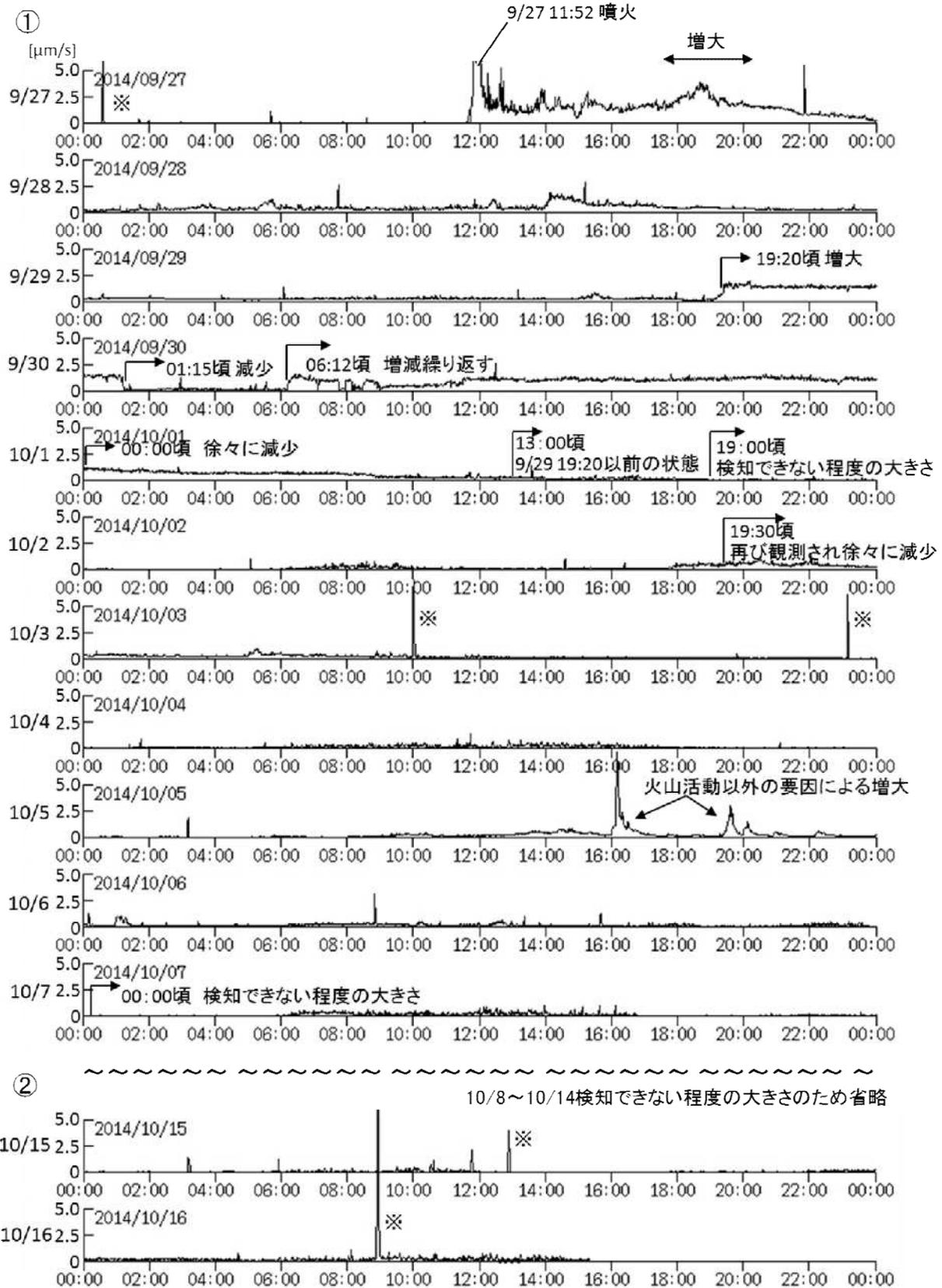


図3 御嶽山 田の原上観測点(剣ヶ峰の南東約2km)の上下動地震波形の1分間振幅平均値の推移
 期間 2014年9月27日00時~10月7日24時00分
 期間 2014年10月15日00時~10月16日15時20分
 火山活動以外の地震による
 ・火山性微動は、10月7日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

表1 御嶽山 2014年9月9日～10月15日の火山活動状況

9月 9日～ 30日	噴火 回数	火山性 地震 回数	火山性 微動 回数	山頂火口の 噴煙の状況 ¹⁾		備 考
				日最高 (m)	噴煙量	
9日	0	10	0	-	-	
10日	0	52	0	-	-	
11日	0	85	0	×	×	
12日	0	10	0	-	-	
13日	0	7	0	-	-	
14日	0	8	0	-	-	
15日	0	27	0	-	-	
16日	0	18	0	×	×	
17日	0	10	0	-	-	
18日	0	24	0	-	-	
19日	0	3	0	-	-	
20日	0	10	0	-	-	
21日	0	17	0	-	-	
22日	0	3	0	×	×	
23日	0	10	0	-	-	
24日	0	9	0	-	-	
25日	0	8	0	×	×	
26日	0	6	0	×	×	
27日	1	483	1	×	×	11時52分頃噴火発生 南西側に火砕流流下、北東山麓を中心に降灰
28日	継続	131	継続	800	3	噴火継続 二酸化硫黄放出量300～1800トン/日
29日	継続	53	継続	400	2	噴火継続 二酸化硫黄放出量400～1300トン/日
30日	継続	56	継続	400	2	噴火継続 二酸化硫黄放出量1200～1500トン/日
合計	1	1040	1			
9月 合計	1	1052	1			

10月	噴火 回数	火山性 地震 回数	火山性 微動 回数	山頂火口の 噴煙の状況 ¹⁾		備 考
				日最高 (m)	噴煙量	
1日	継続	35	継続	400	2	噴火継続 二酸化硫黄放出量700～1000トン/日
2日	継続	16	継続	×	×	噴火継続 二酸化硫黄放出量500～800トン/日
3日	継続	27	継続	×	×	噴火継続 二酸化硫黄放出量600～1500トン/日
4日	継続	25	継続	300	1	噴火継続 二酸化硫黄放出量400～600トン/日
5日	継続	18	継続	×	×	噴火継続
6日	継続	23	継続	×	×	噴火継続
7日	継続	13	*	500	2	噴火継続
8日	継続	15	*	300	1	噴火継続 二酸化硫黄放出量300～500トン/日
9日	継続	6	*	×	×	噴火継続 二酸化硫黄放出量400～500トン/日
10日	継続	10	*	300	1	噴火継続 二酸化硫黄放出量100～200トン/日
11日	**	8	*	300	1	白色噴煙** 二酸化硫黄放出量200～400トン/日
12日	**	8	*	500	2	白色噴煙**
13日	**	12	*	×	×	
14日	**	4	*	×	×	二酸化硫黄放出量200～500トン/日
15日	**	10	*	×	×	二酸化硫黄放出量200～400トン/日
合計	1	230	1			

* 検知できない程度の大きさ

** 少量の火山灰を含んでいる可能性があるが遠望カメラでは確認できない程度の状況

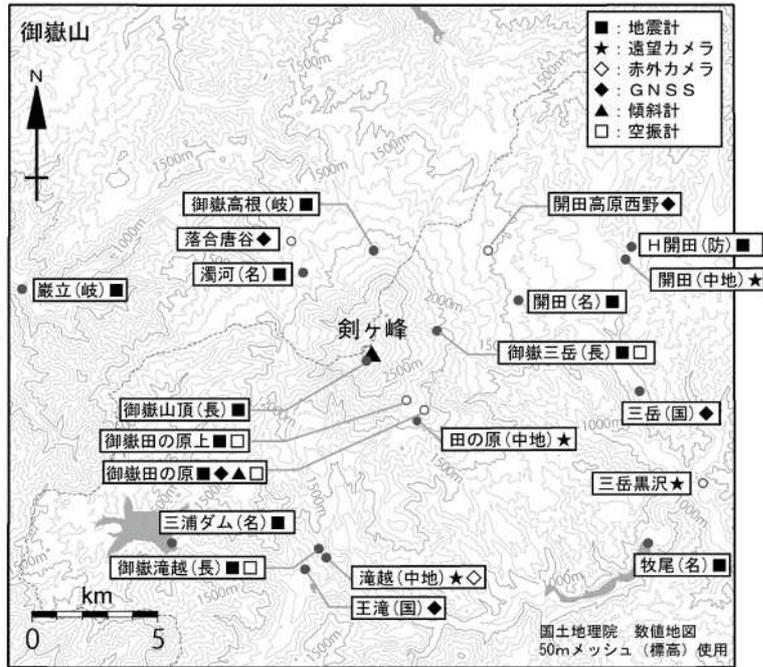
1) 噴煙の高さ及び噴煙量は日最大値(噴火時以外は定時観測(09時・15時)の値)です。

噴煙量は以下の7階級で観測しています。

1:極めて少量 2:少量 3:中量 4:やや多量 5:多量 6:極めて多量

7:噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの

-:噴煙なし ×:不明



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院、（中地）：中部地方整備局、（防）：防災科学技術研究所、（名）：名古屋大学、
 （長）：長野県、（岐）：岐阜県

図 4 御嶽山 観測点配置図